

第2回横浜市総合リハビリテーションセンター等指定管理者選定委員会 議事録	
日時	令和3年6月14日（月） 午後2時～午後5時
会場	横浜市総合リハビリテーションセンター 1階ホール
出席者	森委員長、杉山委員、赤松委員、高木委員、原委員、森委員
開催形態	公開（傍聴者5名）
議題	<ol style="list-style-type: none"> 1 会議の公開について 2 申請状況について 3 欠格条項の確認について 4 評価方法等について 5 申請団体によるプレゼンテーション 6 ヒアリング 7 採点及び討議 8 結果報告
議事	<ol style="list-style-type: none"> 1 会議の公開について 採点及び討議以降については非公開と決定。 2 申請状況について 事務局から申請状況を説明。 3 欠格条項の確認について 事務局から市税納付状況及び申請団の暴力団又は暴力団経営支配法人等の該当を調査した結果、欠格条項に当たらないことを説明。 4 評価方法等について 事務局から評価方法等について説明。 5 申請団体によるプレゼンテーション 横浜市リハビリテーション事業団によるプレゼンテーション 6 ヒアリング <p>【委員】 職員数が法人全体で518名のうち、事務職57名は多いのでは。</p> <p>《リハ》 多岐にわたる部署や夜勤がある施設の運営や円滑な事務を進めるうえで必要な数のため、特別多いという認識はない。</p> <p>【委員】 潤沢な資金の保有している中で、どのような活用を考えているか。また、監査は何名がどのくらいの期間を要して行っているのか。</p> <p>《リハ》 緊急性の高い支出への対応を考えている。金額としては現状程度が適当と考</p>

えており、今後増やしていくという想定ではない。

監査は1回あたり2～3日、4～5名で行っている。

【委員】 監査委員については、定期的にローテーションを行うことも検討してもらいたい。

<事業計画について>

【委員】 中途障害のニーズは幅広いと思うが、重点的なことは何と考えているか。

《リハ》 高次脳機能障害では比較的中程度の見逃されやすい人とのつながりを増やし、社会参加や就労支援につなげることを考えている。

【委員】 専門性の確保のために行っていること、その予算、実際の資格の保有状況はどのようなものがあるか。

《リハ》 研修の実施や学会への派遣を中心に行っている。研修は職種ごとのものと、階層別のものであり年間300万円程度、学会派遣は年間100万円程度。個人の資格取得のため補助金も捻出している。相談員や生活支援員にも同様の支援を行っている。

【委員】 通園について両親が共働きだと親子通園が難しい。土日にも実施してもらえるとありがたい。

《リハ》 社会情勢の変化は認識している。現状では難しい部分もあるが、土日の親子参観や平日での夜間講座の開催等、できることから始めている。

【委員】 発達障害児について一時支援、二次支援があると思う。より精度の高い二次支援を受けたいという要望が多いと想像するがどのようにしているのか。

《リハ》 総合的な支援プランの提供について横浜市とあり方の検討を行っている。医療だけでなく、日々の困りごとの相談機能をさらに強化したいと考えているが、ニーズの全体像を把握しきれていないことが今後の課題と捉えている。

【委員】 難聴児の増加はどのように対処しているのか。

《リハ》 軽度難聴児を地域の療育センターへ案内しているのは令和2年度からの暫定処置である。ニーズに対応するには、集団療育を行うことができる施設が、リハセンターの他に市内にもう1か所必要だと考えている。現状では軽度の難聴の場合は保護者面接などの措置を取り、グループ療育を促進したい。横浜市に一方的に対応を求めるだけでなく、既存のスキームに国費を導入することも検討しており、こども青少年局と協議しながら進めていきたい。

【委員】 中途障害への対応状況はどの程度か。また、補装具はどの程度ボリュームがあるのか、医師の数は妥当なのか。

《リハ》 中途障害については具体的な数字を持っているわけではないが、埋もれているニーズがあるという認識はある。一方で、例えば脳卒中であれば回復期に必要な処置を行っているという前提であり、どこまでの方をリハで対応していくのかという点については判断が難しい部分がある。

補装具については、市の中核施設としてかなりの数を受け持っている。更生相談所があるため、書類判定も含めて考えれば全国的に見ても相当多い認識で

	<p>ある。医師の数についても常勤・非常勤含め、多くいる。</p> <p>【委員】 難聴児への支援施設が横浜市で1か所しかないというのは問題意識を持ってほしい。また、障害年金の更新の際の診断書の作成が断られると聞いたため、対処してほしい。</p> <p>《リハ》 障害年金の診断書作成を更新含めすべて行うと件数が膨大になってしまう。リハセンターで全てを賄うのは現実的に難しいため地域の医療機関へ引き継ぐことが診療所運営の持続に必要だと考えている。</p> <p>【委員】 後見的支援制度は継続しているのか。</p> <p>《リハ》 継続している。リハセンターでは事務局的な役割に加え、肢体障害の方の受け入れを行っている。</p> <p>【委員】 多様化する市民ニーズの吸い上げはどのように行っているのか。ホームページの診療所のリンクが正しくなく、初めて利用する方のニーズを拾えているのか心配になる。</p> <p>《リハ》 正しく設定されていなかった。ホームページを介して利用を検討することも考えられるため、今後このようなことがないように注意したい。</p> <p>7 採点及び討議</p> <p>8 結果報告</p>
<p>その他</p>	
<p>資料</p>	<p>1 主な配布資料 (1) 申請書類一式</p>